苗場山麓ジオパーク

振興協議会だより

Vol.49

［発行日］令和３年６月 30 日
［発　行］苗場山麓ジオパーク推進室
［お問い合わせ］025-765-1600

「苗場山麓ジオパーク 自然資源・文化資源保護憲章」制定より１年経過に寄せて

　苗場山麓ジオパークの豊かな自然資源と深い歴史をもつ文化資源の価値を共有し、未来へ継承しようと謳い上げた保護憲章を制定して１年が経過しました。

　自らが生まれ育った郷土の自然環境と、それを背景に今日まで営々と築き上げた歴史文化に誇りをもつことで郷土愛を醸成したいと考え、津南町・栄村の小学校が連携して「ジオパーク学習」を展開しています。

　児童の影響を受け、親たちも共に郷土愛意識に目覚め、自らの大地や集落の歴史に思いを巡らせ、「この土地に生きる誇り」を紡ぐ歩みが垣間見られるようになりました。

　小学校では、元WWF（世界自然保護基金）の小森繁樹先生を招き、地球儀を俯瞰したグローバルな視点から世界で生じている自然破壊と人々の暮らしについての学習会が７月20日（火）に開催される運びとなりました。地球規模の問題意識をもち、自らが育つ郷土に眼を向け考えられる人を育成するプロジェクトです。国際人とは、英語が話せる人ではなく、自らが生まれ育った故郷の歴史文化や自然環境の尊さを自らの言葉で話すことのできる人を指します。

　これらから未来の苗場山麓をしっかりと歩き、語り、考え、時には提言できる人を育成する背景に「苗場山麓ジオパーク自然資源・文化資源保護憲章」があります。

　さて、この保護憲章が制定され１年が経過した現在、苗場山麓に生育した「ギフチョウ」が捕獲される出来事が発生しました。これはギフチョウに限るものではなく、苗場山麓に生育する動植物をむやみに捕獲・採取することをつつしみ、この豊かな自然環境を未来へ残すことの尊さを再認識させてくれることになりました。

看板をジオパークエリア内の 18 ヶ所に設置

　苗場山麓ジオパーク推進室では「絶滅の危機からみんなで守ろう」のスローガンを印刷し、注意喚起を目的とした看板をジオパーク管内に立てました。また一方、児童たちが昆虫や植物、あるいは地域の遺跡や文化財に興味をもつことは大歓迎されるべきであり、教育委員会とも連携し、夏休みなどを利用した体験学習などを企画しています。

　自然を慈しみ、歴史を深く学ぶことで、地域資源の価値が共有され、その価値を共創することで「幸福度の高い」未来の山村運営を築くことが「持続ある発展」の神髄なのです。

大地のたからもの～苗場山麓ジオパーク特産商品ご紹介③～

【マグマソースの津南ジオカツカレー】ニュー・グリーンピア津南

ジオストーリー

　石落しの眺望をイメージした津南産ポークカツと、マグマをイメージしたカレーソースで、ダイナミックな大地の動きを表現しました。マグマソースは後からやってくる辛さで一度食べたらまた食べたくなる旨味辛さです。

※苗場山麓ジオパーク振興協議会・商品開発部会事務局では、新規商品の申請について、随時ご相談を受け付けております。
　お問い合わせ　津南町役場観光地域づくり課　電話025-765-5454

国の重要文化財「信濃秋山の旧山田家住宅」修復のためにご寄附を

苗場山麓ジオパークの要である中津川渓谷の上野原地区に現存していた旧山田家住宅は、昭和36（1961）年に大阪にある公益財団法人大阪府文化財センターが所管する「日本民家集落博物館」に解体移築されました。移築に伴う調査によって、建築当初は「柱は掘立柱で、茅葺き屋根に茅壁、床は土間であった」ことが分かり、まさに『秋山記行』に記述されている江戸時代後期の秋山住宅そのものでした。この建物は「今から250年前の江戸時代中後期（宝暦～安永頃）に建築されたもの」であり、「秋山郷の中でも最も古い建築様式をもつこと、建物の間取が豪雪地帯に特徴的な中門造りであることや、主要な柱が掘立柱として残っていたこと」から国は極めて貴重な建築物と評価し、昭和39（1964）年に重要文化財に指定しました。移築後の昭和57（1982）年に棟修理、昭和58（1983）年に茅壁修理、昭和62（1987）年に屋根の一部修理、平成元（1989）年に屋根の全面葺替えを行いました。それから30年以上が経過し、有機質材である茅の厚みが痩せてしまい見苦しい状態になってしまいました。

我郷土の文化財が移築されたといえ、大阪府で日本文化の代表的建築物として保存管理され、生きた活用としてのコンサートなどのイベントが開催されてきました。この貴重な文化財を恒久的に保存するための修復工事が計画され、その総額が「7,700万円という莫大な費用がかかる」ことから、公益財団法人大阪府文化財センターは、修復費用の一部にあてるため寄附をお願いしています。私たち郷土の宝物である「旧山田家住宅」修復のため、ぜひ寄附をお願いいたします（3,000円から）。

信濃秋山の民家（平成 14 年撮影）

古くなった茅壁が垂れ下がる様子

※寄附方法は、苗場山麓ジオパークホームページ（https://naeba-geo.org）の【旧山田家住宅（信濃秋山の民家）の保存修理工事を行っている日本民家集落博物館ではご寄附を募っています！（PDF文書）】より申込書をダウンロード、印刷して必要事項をご記入の上、郵送またはFAXにて下記まで送付、寄附額を申込書記載の銀行口座にお振込みください。

寄附募集期間は2021年12月20日（月）17時までとなります。

●お問い合わせ・宛先　〒590-0105　大阪府堺市南区竹城台3-21-4　TEL：072-299-8791
公益財団法人 大阪府文化財センター 本部事務所総務企画課担当　FAX：072-299-8905

津南小学校４年生のジオサイト学習が始まりました

津南小学校４年生は、昨年１年間、郷土学習の一環として、ジオパーク学習に取り組みました。数多くのジオサイトを巡り、専門員より説明を受けました。その成果を、一人一人がオススメのジオサイトベスト３として新聞を作り、エリア内の公共施設や店舗に掲示し「苗場山麓ジオパーク」の魅力を発信しました。また、学年全体で、苗場山麓ジオパーク研究コンクールに出品し、夏休み期間に家族や兄弟、親戚、近所の方などを対象とした苗場山麓ジオパークの認知度調査アンケートを行いました。集計結果から津南町出身30代の年齢層における認知度が低いことが分かりました。これを受けてジオカードを作成し、エリア内の公共施設などで設置・配布を行いました。このような発信活動を続けた子どもたちが４年生へ進級し、引き続き、ジオパーク学習を行うことになりました。３年生の時に訪れることができなかったジオサイトを巡りたい、新たなジオカードを作成したいなど、やる気に満ちています。出前授業にて苗場山麓ジオパークのロゴマークについて子どもたちに質問をしたところ、全員がロゴに隠された意味を答えたことに驚きました。今年度１回目のジオサイト調査では、結東の石垣田と谷の展望台を巡りました。天候は雨の予報でしたが、奇跡的に雨に当たらず、苗場山と鳥甲山の溶岩の転石を人が積み上げて作り上げた石垣田と、風穴を体感しました。谷の展望台では、昨年訪れた石落しなどを見下ろし、その大地の成り立ちを学び、河岸段丘、頸城丘陵、米山など素晴らしい景色を見て感動しました。

谷の展望台にて

ロゴマーク

今後、全７回のジオサイト調査ツアーを行い、学習を深め、さらなる活動を展開していく予定で、事務局でも全面的にバックアップを行う予定です。地域の皆様からもぜひとも子どもたちを応援していただきたいと思います。

認定ジオガイドが伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

高橋紀子さん

私の好きなジオサイト（ガイド No.34 高橋紀子さん）

〜千曲川の源流を訪ねる〜コースマップ

苗場山麓ジオパークサイトの中でも私は空の展望台と川の展望台の２ヶ所、そして外丸神社の八本杉が好きです。空の展望台は上野からマウンテンパークに上っていちばん上にあります。そこからは日本一美しい河岸段丘を見ることができます。季節ごとにながめる景色の違いも素晴らしいと思います。春の田んぼに水が張られて早苗が美しい風景を見ると、ここは私たちの自慢の故郷です。そして秋のみのりの時には黄金色に輝く美しい田んぼが見られます。川の展望台から見える風景は信濃川の流れる様子を見ることができます。信濃川は常に身近にあります。我が家からその流れが見えるのです。

この川の最初の一滴は甲州、武州、信州の堺に聳える山、甲武信ヶ岳の山麓から始まります。何年か前、私はこの山に当時所属していた山の会の人たちと一緒に登ってきました。長野県側からの登山道を清らかな沢コースに沿って登って行くと３時間程で千曲川、信濃川水源地の標識が立っています。そこから１時間程で山頂です。この甲武信ヶ岳からは千曲川、荒川、笛吹川の３つの川が流れ、それぞれいろいろに流れ下って、日本海、東京湾、駿河湾に注ぐのです。

千曲川が信濃川と名を変えるところに苗場山麓ジオパークはあります。そして、私たちはそこに暮らしているのです。甲武信ヶ岳から始まった流れは、そこから数々の支流を集めて367キロメートル流れて日本海に注ぎます。遥か遠いところから水を集めながらここまで来た川は周辺の地域を潤しながら、そして人々の暮らしも守りながら（時には洪水による被害を受けることがありますが）広い海に合流していきます。

外丸矢放神社の八本杉

先日、なじょもん主催の苗場山麓ぶらり旅に参加しました。今回は外丸地区でしたので、地元のことを知りたいと思って行きました。外丸神社の由来、矢放神社の境内に八本杉が御神木として立っています。樹齢は千二百年〜千五百年（諸説あります）と言われています。昭和62年12月４日に町指定の文化財になりました。善久院の石造物群、南北朝時代に帰属する町指定の文化財の御本尊など、たくさんの今まで知らなかったことを教えていただきました。地域の歴史を学ぶことが出来て本当にうれしかったです。

これからも住んでいる地域のことについて関心をもちながら暮らしていきたいと思います。

ガイドが考える 歩いて楽しむ「苗場山麓ジオパークツアー」案のご紹介②

前号に引き続き、ツアー案のご紹介をします。今回は、「今、戦国が面白い」をテーマに、副題：御館の乱（道満丸）伝説を巡る山城と寺院の旅を提案します。歴史好きな方には、オススメのとても魅力的なツアーになると思います。

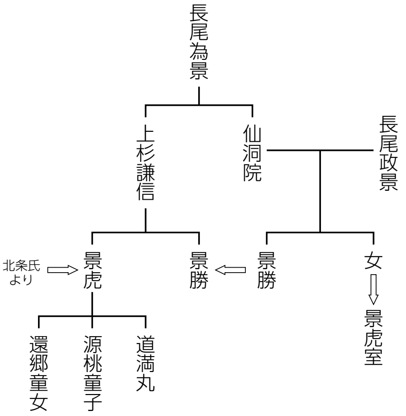
このツアー提案の前提として、上杉謙信とその家系を知る必要があります。謙信は、生涯独身であったため、姉の仙洞院と長尾政景の子・景勝と北条氏から景虎を養子に迎えました。謙信亡き後、この養子間で跡目争い（御館の乱）が起こり、景勝が勝利しました。その際、景虎の子、道満丸は殺害されたとされます。ところが、景虎に味方していた市河氏がその道満丸を助け、津南町の大龍院にて匿っていたという話の中で、常慶院、元寺、仙当城（仙洞院とのつながり？）ほかを巡ってみようというツアーです。

今、戦国が面白い ～御館の乱（道満丸）伝説を巡る山城と寺院の旅～

時間（始～至）	所要時間	場　所	備　考
9:00		森宮野原駅集合 出発	・人数：20 ～ 30 人 ・条件：JR 利用客 （森宮野原駅:下車・乗車） ・対象： 城跡マニアは勿論、御館の乱における道満丸伝説に興味ある方必見のツアー ・巡る場所： 常慶院、市河邸跡、仙当城ほか ＊所要時間は、移動時間を含んでいます。
9:00 ～ 10:20	1:20	★常慶院	
10:20 ～ 11:00	0:40	★元寺（もってら）	
11:00 ～ 11:20	0:20	★市河邸跡	
11:20 ～ 11:40	0:20	★月岡のお宮	
11:40 ～ 12:30	0:50	昼食（弁当）　トイレ	
12:30 ～ 14:10	1:40	★仙当城跡	
14:10 ～ 15:25	1:15	★津南町 大龍院	
15:25 ～ 16:00	0:35	森宮野原駅着 解散	

今回提案のツアーを概観すると、JR飯山線森宮野原駅を下車し、貸切バスに乗車し、一路常慶院に行きます。市河氏の菩提寺である常慶院、現在の栄村・箕作にある常慶院は、1690年に当時の有力者、島田三左衛門が再興しました。（景勝が米沢に転封になった際に、同じく市河氏の僧であった本越和尚が米沢に常慶院を創建しました。）次に市河邸跡を訪ねます。その後、常慶院が再興する前にあった場所を巡った後、月岡のお宮にて昼食・休憩となります。午後は、少し足腰の体力が必要なコースとなります。案内板に従い、やや険しい山登りになります。武田氏と上杉氏がかかわった山城の仙当城跡を見学します。ぜひその特徴をご覧ください。さらに最後は、道満丸が匿われたとされる津南町の大龍院に足を運び、ツアー終了となります。

歴史的な事象とりわけ、戦国武将で有名な上杉氏や武田氏の戦いとそれにまつわる跡目争いの落とし子の道満丸の伝承（伝説）をこのツアーで味わってみるのはいかがでしょうか？

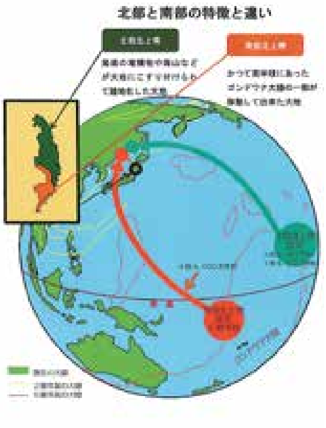


仙洞院と上杉家系図

突撃しょう!となりのジオ便り～三陸ジオパークからこんにちは～

三陸ジオパークは平成25年９月に日本ジオパークとして認定されました。エリアは青森県八戸市から岩手県の沿岸を縦断して宮城県気仙沼市まで、南北約220km、東西約80kmで、その海岸線は約300kmにも及ぶ日本一広大なジオパークです。118のサイトを「ジオ」「自然」「文化」の３つのカテゴリーに分けて紹介し、三陸ジオパークの魅力を「５億年の多様な大地」「リアスの恵みとテラスの営み」「オンリーワンの生態系」「豊かな地下資源」「大津波の歴史と共生」の５つのテーマで伝えています。

三陸地域の成り立ちを見れば、釜石付近で南北に分かれて違いがあります。釜石以南は約５億年前、赤道付近にあった「ゴンドワナ大陸」の一部が移動してきた大地で、内陸の早池峰山付近までを含む大地です。一方、釜石以北は約２億年前の海底の堆積物などが大陸にこすりつけられて陸地化した大地です。その証となる地層や化石鍾乳洞なども豊富で、いわば大地のテーマパーク。５億年の歴史が刻まれ大地の隆起と浸食が生んだ多様な景観を楽しむことができます。「リアス」の水深が深い湾では古来より物資の海上輸送の港として、穏やかな湾内では貝類の養殖が行われてきました。「テラス（海成段丘）」に由来する広い台地は酪農などに利用されています。また「地下資源」の宝庫でもあります。国内屈指の産出量を誇る久慈琥珀、平泉の黄金文化を支えたと伝えられる気仙産金や、古代より広く三陸で行われていた「たたら製鉄」を支えた砂鉄や木炭、日本の近代製鉄の礎を築いた釜石地域の鉄鉱山、セメントの原料として現在も採掘が続く大船渡市周辺の石灰石鉱山など、豊富な鉱物資源は人々の暮らしに大きな影響を与えてきました。



三陸の成り立ち

三陸鉄道リアス線

そして、三陸沖は太平洋プレートの沈み込みに伴う地震・津波災害の多発地帯であり、太古の地層にも大津波の記憶が残されています。三陸は津波災害と共生する知恵と教訓を伝えることができるフィールドです。

とても一日では回り切れない三陸ジオパークですが、みちのく潮風トレイルと三陸復興国立公園の見どころを併せもつ三陸ジオパークへどうぞお越しください。